

| | |
|-------------|---|
| 研究課題名 | 肺腺癌における悪性化進展メカニズムの解明 |
| 研究責任者名 | 広島大学原爆放射線医科学研究所腫瘍外科 教授 岡田 守人 |
| 研究期間 | 許可日 ~ 2025年3月31日 |
| 対象者 | 2013年4月から2017年3月の間に、広島大学病院呼吸器外科で肺癌に対する切除術を受けた患者さんのうち「病理標本の教育・研究利用についてのお願ひ」に基づき説明を受け、同意の上で試料・情報を提供いただいた患者さん |
| 意義・目的 | 近年、小型肺腺癌は増加傾向にあり、浸潤癌という部位と非浸潤癌という部位が混在していることが多くみられます。この二つの部位で発現している遺伝子を比較し、浸潤部で高発現を示す遺伝子をいくつか発見しました。本研究では、その遺伝子群のうちのひとつである Guanylate binding protein 1 (GBP-1) に着目し、その解析を進めることで、肺癌の新たな治療開発につなげていきます。 |
| 方法 | 本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は年齢、性別、身長、体重、喫煙歴、腫瘍径、病期（臨床病期、病理病期）、手術日、術式、手術記録、血液検査結果、病理検査結果、画像情報、治療経過です。 手術時に切除された肺癌検体を用いて、免疫染色を行いGBP-1 タンパク質の発現を調べます。 （個人を特定可能な情報は解析に用いませぬ） |
| 利用を開始する予定日 | 本学における実施許可日（2023年8月22日）以降 |
| 共同研究機関 | 共同研究機関はありません（外部への試料・情報の提供は行いません） |
| 試料・情報の管理責任者 | 広島大学原爆放射線医科学研究所 腫瘍外科 教授 岡田 守人 |
| 個人情報の保護について | 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。 |
| 問合せ・苦情等の窓口 | 〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5869 広島大学大学院医系科学研究所 大学院生 熊田 高志 広島大学病院呼吸器外科 助教 見前 隆洋 |